

# 環境・安全・持続可能性に 対する取り組み

※以下は2006年5月期(2005年6月~2006年5月)の取り組みです。2007年5月期の取り組みは、2007年12月発行予定の「環境安全/サステナビリティ・レポート2007」をご覧ください。

## 持続可能性に関する基本的な考え方

日本化薬グループは、「生命と健康を守り、豊かな文化生活を支える製品と技術で、人類に貢献し続ける会社」の実現を通じて、企業の社会的責任を果たし、持続可能な社会づくりに貢献します。私たちは、レスポンシブル・ケア\*の考えに基づき、積極的に「環境」「安全」「衛生」面に配慮した経営を推進すると同時に、事業活動の強みを活かした「社会活動」に取り組んでいます。

\*レスポンシブル・ケア(Responsible Care):化学物質を製造または扱う企業が化学物質の開発、生産、販売、消費から廃棄に至るまでの過程において自ら積極的に「環境」「安全」「衛生」面に配慮した対策を行う活動です。1985年にカナダで誕生した後、世界に広がり、現在では40数カ国で実施されています。

## 社会活動

### あすなるの家

日本化薬は10年前、80周年記念事業の一環として、小児がんなどの難病治療や骨髄移植を受ける小児に付き添う介護者の滞在施設「あすなるの家」の開設を決定しました。1998年、埼玉県さいたま市にオープンしたこの施設は、今年9周年を迎えました。10の個室のほか、介護者が交流を図れる共同キッチン、食堂、談話コーナーや子どもたちのプレイルームが設けられています。オープン以来、ご利用家族はほぼ継続して増え続けており、2006年1~12月は264件のご利用をいただきました。



### 乳がんの早期発見

日本化薬は、抗がん剤の提供や医療従事者を対象とした勉強会などを開催する一方、一般の方々への啓発活動にも力を入れています。毎年10月に世界的に行われる「ピンクリボン活動(乳がん啓発活動)」に協力しているほか、2006年には、乳がん情報サイト「乳がんinfoナビ」に協賛し、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の重要性を広く訴えています。



乳がんinfoナビ [http://www.nyugan-infonavi.jp/n\\_navi/](http://www.nyugan-infonavi.jp/n_navi/)

## 環境活動

### 環境マネジメントシステム

日本化薬グループは、レスポンシブル・ケアの活動をより効率的に推進するとともに、環境活動の継続的なレベルアップを図るために、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得を進めてきました。2001年までに日本化薬の全6工場で認証を取得したほか、現在はグループ会社の(株)ボラテクノ、インデット セイフティシステムズ社、化薬化工(無錫)有限公司、無錫宝来光学科技有限公司(WPLC)が認証を取得しています。

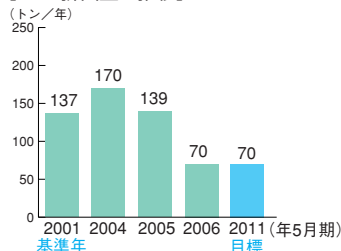
### 環境マスタープランの目標と進捗状況

日本化薬は、環境マスタープランに「化学物質」「廃棄物」「地球温暖化防止」の3項目に関する2011年5月期までの中期目標を定め、活動を推進しています。2006年5月期は、年度計画目標を達成していますが、この要因には2001年5月期以降の製品需要の低迷による生産活動の低減が含まれているため、引き続き対策を進めていきます。

#### ●化学物質の環境排出量削減

「2011年5月期には、VOC(揮発性有機化合物)の大気への排出量を2001年5月期比で50%削減し、70トン以下とする」という目標を、2006年5月期に達成しています。2007年5月期は、工場別のVOC削減目標の設定と、削減計画の立案を行います。

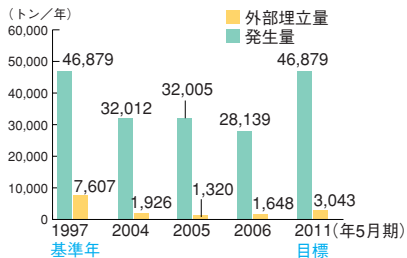
#### [VOC排出量の推移]



## ●廃棄物の削減

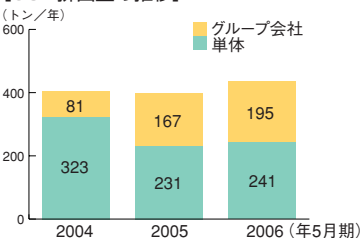
「2011年5月期には、廃棄物発生量の増加を1997年5月期比でゼロに抑制する」という目標を、2006年5月期に達成しています。2007年5月期は廃棄物の再資源化推進などを実施します。

[廃棄物発生量および外部埋立量の推移(日本化薬単独)]



色材の製造を行っている福山工場、東京工場では、製造工程から、高負荷(高COD:化学的酸素要求量)の着色廃水が産出されます。この廃水による環境負荷を低減するために、活性汚泥処理装置や、活性炭若しくは微生物による脱色装置で処理を行っています。さらに効果的な脱色の方法を研究しています。

[COD排出量の推移]



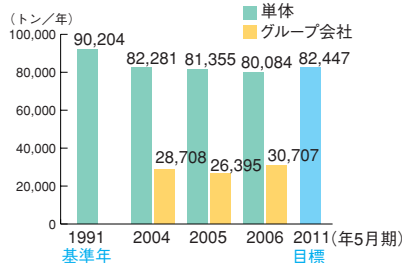
染料業界で初となる液状用染料の小入れ目容器(20kg)の回収・再利用サービスを、2006年6月に開始しました。お客様先での容器廃棄物コストの低減と同時に、資源の有効活用にも貢献します。

## ●地球温暖化防止

「2011年5月期には、エネルギー起源二酸化炭素排出量を1991年5月期比で8.6%削減する」という目標を2006年5月期に一時的に達成しています。しかし、製品需要の回復と事業範囲の拡大に伴い、今後は二酸化炭素排出量の増加が見込まれていますので、さらなる省エネルギー施策に取り

組んでいきます。2007年5月期は、福山工場のボイラー燃料を都市ガスに転換するなどの活動を行います。

[エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量の推移]

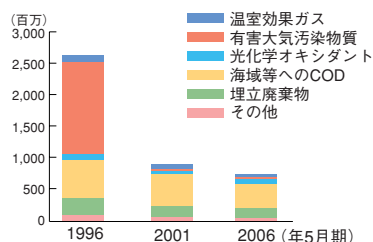


## 環境影響ポイントの推移

日本化薬の環境活動結果を総合的に評価するために、JEPIX\*による環境影響ポイントを算出しました。レスポンシブル・ケア活動を開始した1996年5月期と2001年5月期、2006年5月期を比較すると、レスポンシブル・ケア活動の最優先課題であった有害大気汚染物質の削減が、事業活動全体の環境負荷削減に大きく貢献していることが判ります。また、環境マスタープランを策定して活動に取り組んでいる廃棄物削減が、これに続いて貢献していることも判ります。こういった自己評価を今後の活動につなげることで、より効果的な環境活動を実施していきたいと考えています。

\*JEPIX: Japan Environmental Policy Indexの略で、環境負荷の統合化手法のひとつです。物質ごとに定められたエコファクター(環境影響の度合い)と排出量を積算し、これらを総計することで、事業活動全体の環境負荷を統合して表すことが可能になります。

[環境影響ポイントの推移]



## 環境会計

日本化薬は2006年5月期、排ガス処理装置、廃液処理装置、省エネルギー型ボイラー、容器リサイクルシステムの導入などを実施しました。これらに要した環境保全コストは22億1,357万円、環境保全効果は8,161万円となっています。